

特集 ■ 診療報酬からみたリハ—疾患別リハ導入のその後

2006年にリハビリテーションに関する診療報酬の大きな改定が行われたことは、記憶に新しいことと思います。従来の複雑、簡単というリハビリテーションの枠が疾患別となり、現在では、この形で定着しております。確かに超高齢化社会の到来により、脳卒中後遺症への対応が従来にも増して重要となってきており、脳卒中なら脳卒中に応じた、いわば疾患別のリハビリテーションが必要と言えます。しかしながら一方、脳卒中を例にとれば、各種の合併症を抱える患者も多く、本来、横断的な医療を提供するリハビリテーションの現場では、このような疾患別という括りが適切かどうかは議論があるところです。このような背景から、今回は診療報酬に疾患別リハビリテーションが導入されて以来の臨床における問題点を明らかにするべく、その現状と課題に焦点をあてて特集を組みました。

疾患別リハビリテーション導入の現状と課題 (吉永勝訓氏, 7頁)

疾患別リハビリテーションが導入されるにあたっての経緯が述べられ、それまでの体系と疾患別リハビリテーション体系の相違についての詳しい解説がなされている。特に2004年から2010年までの2年ごとの改定に関しての要点が挙げられ、本当に疾患別の体系がよいのか、各疾患別リハビリテーション間の点数差は妥当なのか、制度が複雑すぎるのではないかなど、問題点が指摘されている。

脳血管疾患等リハビリテーション (梅津祐一氏, 15頁)

現在のリハビリテーションの主流である脳卒中に関して、脳血管疾患等リハビリテーションが導入されて以来、どのような変化がみられたかを、高齢者リハビリテーション研究会がまとめた厚生労働省への答申の達成状況を示しながら解説している。著者の病院における回復期リハビリテーション医療については、むしろ豊富なスタッフが配置されることとなり、懸念されたチーム医療の脆弱化は杞憂であったとのことであるが、この分野における種々の問題点も浮き彫りにされている。

運動器リハビリテーション (藤野圭司氏, 23頁)

脳卒中が中心となってきたリハビリテーション医療の現状に対し、運動器リハビリテーションを確立するために、診療報酬上の裏付けをとる必要があったとして、その歴史的経緯が述べられている。さらに日数制限、疾患別など、現状における課題が指摘され、新しい概念である運動器不安定症、ロコモティブシンドロームに関しても言及がなされている。

心大血管疾患リハビリテーション (小山照幸氏, 31頁)

心大血管疾患リハビリテーション料について、届出医療機関数、施設基準別内訳、都道府県別内訳、診療報酬において占める割合などの現状が詳しく述べられている。2010年の施設基準の緩和により届出医療機関数は増加したが、絶対数の不足、地域格差、認知不足などの問題があり、日本心臓リハビリテーション学会の取り組みなどが紹介されている。

呼吸器リハビリテーション (堀江健夫氏, 37頁)

21世紀になり大きな変化を遂げた呼吸器リハビリテーションについて、多職種によるチーム医療での介入(包括的呼吸リハビリテーション)の重要性とともに、リハビリテーション料届け出施設数、診療報酬などの現状が述べられている。さらにCOPDについて、早期診断、早期リハビリテーションの必要性が強調され、呼吸器リハビリテーションの今後の方向性が示されている。

書 評

作業療法士が行うIT活用支援(渡邊慎一)…94 臨床ハンドセラピー(平地一彦)…96

ニュース

2009年度の社会保障給付費、過去最高の99兆8,507億円—国立社会保障・人口問題研究所…21 「第19回総合リハビリテーション賞」授賞式開催される…22 「ノーマライゼーション・障害者の福祉」2011年11月号特集目次…35 東日本大震災で被害にあった障害者数(岩手県、宮城県、福島県)…60 人口1億2,805万人に、少子高齢化さらに進む—2010年国勢調査…83 障害児施設を一元化—厚労省、実施基準案など説明…100

お知らせ

2012年度ボパース概念小児領域8週間講習会…41 2012年度ボパースアプローチ脳性まひ8週間講習会…59 2012年度成人片麻痺ボパース講習会…65 第3回ニューロリハビリテーション学会学術集会…74 第38回日本整形外科スポーツ医学会学術集会…74